

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ミライエ 楽さん家		
○保護者評価実施期間	令和7年1月23日		～ 令和7年2月7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32名(30世帯)	(回答者数) 26名(24世帯)
○従業者評価実施期間	令和7年1月23日		～ 令和7年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月21日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	フロアが広く、バリアフリーになっている。	安全に快適に過ごせるように個室等も完備している。	子どもたちがより過ごしやすい環境になるよう構造化を進めている。
2	洋式、和式の2種類のトイレがある。	車椅子の児童が一人で着脱できるように備え付けの寝台を設置している。	安全点検を行う。
3	学校の宿題や個別課題がしやすい学習室がある。	パーテーションを設置し、刺激の少ない環境にしている。	個別課題を増やしていき、子どもたちの自主性が伸びるよう支援していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員のスキルが十分ではない。	支援の方向性が十分に統一できていない。	内部研修の実施、外部研修への参加を行い、実践を重ねながら経験を積み重ねていく。
2	情報共有がうまくいっていないことがある。	営業日が月～土曜日のシフト制のため、情報伝達がうまくいっていないことがある。	情報が確実に伝達できるようメモや連絡網を活用していく。
3	空間が広すぎるが故に、子どもたちが走り回りやすい環境となっている。	物理的構造化がしっかりできていない。	活動目的と場所、時間等を明確にし、静的な遊びと動的な遊びが混在しないように環境調整していく。個別スケジュールを活用し、子どもたちが自分たちで見通しを持ちながら主体的に活動できるよう支援していく。